

Love & Peace

たつの市立龍野東中学校 令和7年度 2年生 学年通信No.10 学年係:石井孝征

<2学期を終えて>

二学期が終わりを迎えました。行事や日々の授業を通して、一人ひとりの成長が随所に見られた学期でした。学習面だけでなく、人との関わりや物事への向き合い方においても、多くの経験を積むことができたと感じています。

さて、近年、学校教育の中で大きく変化していることの一つに「宿題の出し方」があります。以前は、プリントやワークなど、全員に同じ宿題を出すことが一般的でしたが、現在ではその割合は年々減少しています。

なお、宿題が全く出されていないわけではなく、現在も各教科担任から、生徒が自分に必要な内容を選んで取り組む「自主課題」が示されています。

一律の宿題が減っている背景

この背景には、社会の変化があります。現代はVUCAの時代と呼ばれ、先行きが不透明で変化の激しい社会です。ただ知識を多く身につけているだけでは、将来にわたって価値を発揮し続けることが難しくなっています。

また、マルチステージモデルという考え方も広がっています。これは「一つの仕事を一生続ける」のではなく、人生の中で学び直しや転身を重ねていくという生き方です。そこでは「自分に今何が必要なのかを考える力」や「学び方を選び、調整する力」が欠かせません。一方で、個別懇談では「宿題を出してほしい」「宿題がないと家で勉強しないのではないか」といったご意見も多くいただきました。保護者の皆様が、お子様の学習を大切に思われているからこそその声であり、学校としても真摯に受け止めています。

「やらされる学習」から「選び取る学習」へ

二年生の生徒に授業中、次のような質問をしました。「ワークやプリントの宿題を、答えを写して提出することはありますか」とすると、約半数の生徒が『よくある』と答えました。

このことから分かるのは、宿題の量を増やすことが、そのまま学力向上につながるとは限らない、という現実です。「では、答えや解説を渡さずに勉強させればよいのでは」と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし、解説がない学習は理解に時間がかかり、学習効率が非常に悪くなるという側面もあります。

また、教師に追い込まれ、縛られる形での学習では、学力は本当の意味で定着しません。自分で考え、納得しながら学ぶ経験があってこそ、力は伸びていきます。

将来につながる学びのために

入試や将来の自分のために、今何が必要で、どのような姿を目指したいのか。オープンハイスクールへの参加や、さまざまな社会体験を通して、生徒自身が視野を広げ、自ら考えることを大

